

平成28年度 飯山市 子ども・子育て会議 会議録（要旨）

開催日時 平成28年 6月23日（木） 午後1:30～

場 所 飯山市役所 全員協議会室

出席人数 委 員：16名（3名欠席）
事務局： 5名

1. 保育拡大の状況について

事務局：(保育拡大の概要・利用状況等について説明)

特に意見無し

2. 仮称「飯山市子ども館」について

事務局：(支援事業計画の関係個所、「子ども館」の案概要について説明)

会長：いま話のあったとおり、私は仮称「飯山市子ども館」建設検討委員会の委員長を務めている。検討委員会の中でも委員の皆さんから活発な意見をいただいております、それらの意見を積み重ねて、いい施設ができるようにしたい。これに関して意見はあるか。

委員：「子ども館」は、小学生から高校生までもを対象にしているとのことだが、同じ空間に小学生から高校生までもを一度に収容するという考えか。

事務局：「児童クラブ」は、いわゆる学童保育であり、登録した児童を保護者の仕事が終わるまで預かるというもので、小学生のみが対象である。上町などの「児童センター」は、高校生までも誰が行ってもよいという施設である。飯山市では児童センターでも児童クラブを実施しており、登録児童はおやつを食べたり勉強したり遊んだりして過ごしている。「子ども館」も、今ある児童センターを大きくしたイメージの施設なので、児童クラブの機能を兼ね備えたものとなるだろうが、高校生が児童クラブ室に入ってくるということはない。ただ上町も現在そうだが、体育館には中学生や高校生が入って遊ぶことはありえる。限られた体育館の中で小学校低学年と中高生が一緒に遊ぶのには難しさがあるだろう。そういった困難さの対応も含めた検討のため、来週検討委員会の先進地視察として新しい施設を見学に行く。その施設では保育園入園前の乳幼児、児童クラブの小学生、児童センターを利用する高校生までもが利用可能となっているため、運用方法を含めて聞きながら検討していきたい。イメージとしては、この施設のように誰でも利用できる施設を考えている。

委員：さまざまな年齢の子どもが混ざって過ごすことは、高校生が小さい子を見たり、小さい子が上の年齢の子と遊んだり、いい部分もあると思う。しかし、今の時代では怖い部分もある。先日の誘拐監禁事件の犯人も、中学生の頃から誘拐願望があったという。高校生でそういった犯罪を起こす人も実際にいる。危険ドラッグが高校生から小学生の弟に伝わったという事件もあった。預ける側としては、そういった面で怖いという気持ちがある。そういったリスクを考慮していただきたい。

事務局：そういったリスクも運営上で考えていかなければいけない。ふたつの施設をひとつにすることで職員の余裕が出てくると思われるので、運営体制できちんと対応していくということがひとつの方法。もうひとつは、児童クラブ室といった小学生の利用スペースをきちんと区切って設けるという対策が考えられる。

委員：この「子ども館」は、新しく施設を作るのか。それとも飯山小学校の空き教室を利用するのか。

事務局：飯山小学校の中に作るということは考えていない。先ほど説明したように、いろいろな機能を持たせたいというのが理由。また、他の小学校で実施している児童クラブも、空き教室を利用しているところはない。空き教室を利用するとなると、遅い時間まで実施する場合に出入口をどうするかという問題や、学校内のセキュリティの問題、体育館の利用が常時できるかといった問題が生じる。空き教室を利用するとなると、「子ども館」ではなく児童クラブという形になるが、城山児童館と上町児童センターの子どもたちを集めるとすると、二部屋、三部屋というように別々の部屋で実施するようになるということもある。これらのことから、事務局としては、小学校での実施は考えていない。

委員：新しい施設を作るとしたら、場所はどこになるのか。

事務局：飯山小学校の児童を対象とするので、飯山小学校を中心としたエリアになることは想定している。施設の機能や規模は検討委員会で検討しているところであり、規模に応じたまとまった土地が必要になるが、そういったところも含め、検討委員会で意見を頂戴しながら作っていきたいと考えている。

委員：そういうことであれば、例えば来年オープンするといったものではないということか。何年かの期間が必要になるということか。

事務局：そのようになる。

事務局：事務局としての「子ども館」のイメージは、小学生を対象とした児童クラブ機能だけを持たせるものではない。上町児童センター、城山児童館も小学生に加え自由来館の中高生までもを対象としているが、そういった機能に加え、就学前の子どもを対象にしたり相談窓口がある子育て支援センターの機能も併せ持つ、子育てにかかわる総合的な施設として検討委員会で検討している。

委員：早急をお願いしたい。計画に時間がかかり、それから建設するとなると、今利用したい児童は下手をすると小学校を卒業してしまう。時間がかかるほど、使いたいのに使えなかつ

たという事例がたくさん出てくる。やるのであれば本当に早急に、早く計画して早く場所を探して建物を作るべき。会議室で話をしている、事業が進んでいかなければ恩恵を受ける子どもが少なくなっていく。せつかくのいい案なので、早急に実現していただきたい。

事務局：検討委員会の中では、平成30年度の開館に向けて検討を進めている。

3. 子ども未来基金について

事務局：(基金の概要を説明)

特に意見無し

4. 平成28年度飯山市保育料について

事務局：(保育料概要の説明)

会長：今の説明について意見や質問はあるか。なければ、今までの説明を通じて意見や質問を伺いたい。

委員：働いている母親がすごく多くなってきているというのを友達を見ていて実感する。「子ども館」がいい体制で早くできると、子どもたちのためにはいいと思う。外で遊べる場所が少ないので、友達とみんなで遊べる広い場所があるといいと思う。駅の周辺やなちゅら等に公園は整備されてきているが、遊具が少ないという声を聴く。遊具は親の目のないときにはけがをしたりという心配はあるが、子どもは遊具で遊びたいと思う。飯山では冬の問題があるので設置されないのかとも思う。

会長：確かに飯山は冬が大変。私の住む地区にも以前保育園があったが、今はなくなってしまい、そこにあった遊具が集会所に設置され、遊ぶ場所ができている。冬前にはすべて撤去して、春になるとまた設置する必要がある。子どもたちが安心して遊べる場所があるのはいいことだ。

委員：事業者の立場としては、以前は土日は会社が休みであったが、最近ではサービス業を中心に土日でも営業している場合が多いので、土日の保育のニーズに対応していただいていることはありがたい。しかし利用状況の報告を見ると、一日あたり2人とか3人とかの利用

しかなく、思ったより少ない。ニーズとしてはもう少しあるように思うので、周知が足りていない等の原因があるのではないか。「子ども館」に関しては、私自身小学生の頃に上町児童センターを利用して、外で野球やサッカーや鬼ごっこ等で遊んでいた思い出がある。やはり最近では子どもが集まって遊ぶ場所自体が少なくなっているから、新施設はいいことだと思う。ただ、当時から上町児童センターは狭いと感じていて、高学年が野球を始めると低学年は外で遊べないといった状況があったので、広い場所があればいいと思う。中高生の利用に関しては、自分は部活をやったり他で遊んだりして、このような施設を利用したりすることはなかったが、実際に今のくらいの利用があり、また新施設についてどのような考えでいるか。

事務局：高校生の利用はほとんどない。中学生は、小学校を卒業したばかりの時期に顔を出したりということはあるようだ。バスケットゴールがあるので、たまにバスケットをしに来ることはあるようだが、学年が上がるにつれてほとんど来なくなる。

委員：バスケットゴールに来るということは、児童センターというよりは公園としての使い方になっているのか。

事務局：児童公園に遊びに来るというイメージだ。

委員：今の発言に補足したい。私が訪問して見ていると、3月の休み等に中学生の利用が多い。学校が終わってから塾に行くまでの時間を過ごす子どももいるが、やはり長期の休みに利用が多い。

会長：先ほどの発言にあった、土日の保育の周知についてはどうなっているか。

事務局：基本的に利用したい方はすでに保育園に通っている家庭なので、保育園からの周知をしている。また、一日平均を出すと先ほどの少ない数字になるが、これは一年を通した日曜日等の日数で割り返した人数なので、実際にはしろやま保育園でいうと一日5、6人の利用がある。サービス業の家庭等では日曜日にはほとんど毎回の利用があったりするが、仕事が休みの場合には保育園も休むので、そういった場合も含めて平均するとこういう数字になる。とがり保育園はスキー場や民宿があるので、冬の利用が多いと見込んでいたが、祖父母等に頼れているのかそれほど利用は増えず、逆に夏場に忙しい農家の家庭が利用している、というのが特徴であり、利用が多い時期には4、5人の利用があっても、一年の平均にすると少ない数字になる。利用したい方が利用できるよう、子育て支援施策の周知についてはこれからも随時課題として行っていきたい。

委員：会社としては生産達成のため、休日や長期休みの時期にも出勤をお願いする場合がある。そういうときに気軽に預けられる施設があるとありがたい。拠点ではなく各地にできてく

れば本当はもっとありがたい。利用したい方が利用しやすい条件で施策を実施していただきたい。

会 長：会社の中に保育所はあるか。

委 員：うちの会社にはない。従業員数が 1,000 人、1,500 人といれば保育所があるような会社もあるようだ。

委 員：児童センター等の運営委員会が先日開かれたが、開所時間の延長が、どの館からも出るような大きな課題であった。保育園も時間延長、休日保育の実施と拡大してきているようなので児童センターの方も教育委員会と足並みをそろえて、どういう形で出来るかということも含めて相談、検討していかざるを得ない。もう一点、子ども未来基金の関係では、近隣の各市町村も当然魅力のある子育て環境を作ろうと考えていることなので、飯山市も、特に長野以北の市町村の中で負けないように基金の活用や、保育料の軽減等検討してほしい。経済面のサポートも重要になってくる。

事務局：児童館・児童センター・児童クラブの関係では、先日の運営委員会でも意見をいただいたところ。体制づくりをどう進めていくか、今後社協との検討を進めていきたい。

委 員：保育園としては、保護者に寄り添い、子どもの味方になりたいと考えている。家庭の生活を支える、子育てに関して困難な状況にある、社会において力を発揮したい、等の様々な理由で保育を希望する保護者がいるが、そういった保護者たちと一緒に子育てをしていくことに努めている。ただ、親自身が育っていくということに関して言うと、0歳から2歳児という特に大変な時期に、親が四苦八苦しなから育てることによって、親も育つ。どうしても預けなければいけない状況かということは面談の中で判断しつつ、自分の手で育てることも大事だということも伝えている。一番は子どもの味方になることだが、親の立場も考えながら、受け入れていっている。子育て支援センターが「子ども館」に併設されるということに関しては、施設が整うということはとてもいいことである。ただ、保護者としては、支援センターのような施設だけでなく、保育園でも遊ばせたいという考えもある。私の孫も、支援センターのような施設に行っていたが、保育園に行ってみたらまた違うという感想を持ったようだ。そういったことを考えると、現在1か月に1回程度しか行っていない園開放を、もっと拡大していくことが必要ではないかと感じている。一時預かりについては、保護者が困ったときに預けていただいているが、ファミリー・サポートでは近所に預けられる会員がいなくて困るという状況がある。一時預かりは全保育園で実施しているが、保育士の余力がなく、受け入れが難しい状況もあるので、柔軟に受け入れられる体制を整えばいいと思う。また、うちの保育園では、3歳未満児が30人くらいいる。部屋に余裕があったため、0歳児、1歳児、2歳児にクラス分けができた。保育士たちも大事な時期だととらえ、一生懸命に保育している。保護者も大変なんだとは思いますが、おむつ

の外れ等、発達が気がかりな面が見えている。そういった点もあり、保護者の相談にはいっぱいのお返事をあげたいと思っている。相談の内容としても、非常に重い相談もかなり多い。「子ども館」の相談機能の充実にはとても賛成なので、ぜひお願いしたい。

会長：とてもいい意見をいただきました。子どもを育てることは、親を育てることからつながる。語弊があるかもしれないが、若い保護者には、自分に育てる時間がないから預けちゃおうという部分が多々見受けられる。大変だろうが、もう少し我慢して頑張ってもらえれば、それを乗り越えたときに子どもも、保護者自身も成長するのではないかな。

委員：自分の子をよくしたいということに関しては、保護者達は本当に一生懸命。その思いで保護者と保育園側が繋がれるので、いい方向に持っていくことができる。

会長：現場の保育士たちには本当に頭が下がる思いだ。

委員：ここにいる委員の中にも、幼稚園のことをよく知らない方も多いのではないかな。公立保育園の入園案内の中にも、幼稚園は、「教育を望む～」と書かれている。ここにどう記載してもらえば幼稚園のことを理解してもらえるかということはかなり悩んだ部分である。教育を提供していることは間違いないが、働いている母親も3分の2以上はいる。働いておらず、ゆっくり子育てをしている母親のための施設ではない。職員も、ほとんどが保育士の資格を持っている。確かに保育園とは違うので、保育園では保育指針、幼稚園は学校教育指針に沿って運営しているが、読み比べてみると、かなり似ている。そういったことも周知していかななくてはいけないのかなと感じる。預かりも午後6時までに行っている。ニーズとしては6時では間に合わせるのが大変なので延長してほしいという声があるが、職員の勤務形態を考えると延ばすに延ばせない、という問題がある。保育園と幼稚園の大きな違いは、職員が8時間で帰れるか帰れないかという点。保護者のために、子どものために、と長くみてあげようとする、職員に負担がかかっていくという苦悩がある。また、幼稚園は料金が高いという声もある。大勢の方はご存じないと思うが、幼稚園の保育料には補助金があり、年度末にほとんど全額が返ってくるという方もいる。そういった料金のことも発信していかななくてはいけないことではある。働いている母親が多いので、小学校に入学したら児童館や児童センターを利用する児童もたくさんいる。実際、児童館で上の子を引き取ってから幼稚園に迎えに来る親もいる。そんな状況なので、「子ども館」が早くできたらいいなと感じる。教育相談としては、保護者が気軽に、重くならないうちに相談できるようにするためにはどのような施設や、体制を取っていけばいいのかな。自分の悩みを打ち明けるとするのは、人によってはプライドが邪魔をしたり、「こんなことを相談したら笑われる」と恥ずかしがったり、マイナスなイメージが大きい。相談機能を盛り込むのであれば、敷居の低いサロンのように、ふらっと立ち寄ってお茶を飲みながら簡単にお話しができるような場所になってほしいと思う。幼稚園でも簡単に相談してくれる方と、こちらから持ちかけてもなかなか話してくれない方がいる。「子ども館」の検討にあたっては、そう

いったことも考えていただきたい。今ある児童センターは本当に狭い。小学校にあがってからも、幼稚園の庭で遊びに来る子どももいる。ありがたいことなので、けがをしないように遊んでね、と声掛けをしている。場所の選定についても子どものことを考えて慎重に決めていただきたい。

委員：制度が変わり、時間の延長、保育料の細分化が行われたことで、保護者は喜んでいる方が多いと思う。しかしその分大変さは保育士の方に回っている。うちの保育園では130名の子どもがいるが、そのうち80名以上は16時半以降まで保育園に残っている。単純計算でひと学年に20人はいて、これがそのまま児童館を利用することになると思う。統合新設すれば利用数も大きく増えることになると思うが、利用できるようお願いしたい。保育料については、細分化によって安くなったという方がほとんどなので、喜んでいる保護者が多いと思う。第3子も無料であり、3人同時に通わせても安いということで喜んでいる方もいる。しかしひとり親については、低階層は無料だが、頑張って働くと保育料が発生してしまうという矛盾が私はどうしても納得できなく、かわいそうだ。2人きょうだいという家庭が多いが、2人預けて保育料が5万、6万となっている家庭もある。しかし3人目まで育てる家庭は少ないので、第3子が無料だとしても何の恩恵も受けずに学校に上がっていく家庭が多い。やはり一部の家庭だけが恩恵を受けるのではなく、全員が良かったと思える施策を考えていただきたい。年長児は全員無料、などのみんなが、子どもを育ててよかったな、と思える時があるといい。ひとり親は一生懸命子育てをしている人もいるが、子どもたちはいろいろ問題が多く、相談に上がるのは、ひとり親の子どもが多い。そういった子のケアは学校にも引き継いで一生懸命やっているが、学校でも引き続き見ていっていただきたい。

事務局：保育料の負担軽減については、事務局としても常日頃検討している事項である。今年度については、国の制度の変更と同様である。課題としては飯山市総合戦略にも、保護者負担の軽減という部分は位置づけられている。その中でどういった方法を取るのかだが、今出た案のように年長児を全員軽減することも一つであるし、ひとり親についてはできるだけ負担を軽減していきたいと考えている。全員一律に、ということであれば、保育料の基準額表の全ての階層を一律何パーセントカット、という方法もある。ただ、どういう形が本当に保護者の負担軽減になるかということは、市の財政サイドや、この会議でいただいたご意見も含め、検討していきたい。

委員：保育時間の延長については、若い母親たちを中心に大変喜んでいるという声を聞いている。土曜・休日の保育も、実際に見せてもらいに行くと、他の保育園から来た子どもたちと仲良く遊んで一日過ごしていたので、子どもたちの順応性もあって、母親たちは安心して働けるのだな、と思った。「子ども館」については、相談機能を考えるなかで、先ほど「サロンのな」という意見があった。現在市で実施している健康相談でも、母親たちはいろいろな話があるようで、終わった後も残って話をしている。このように、気楽に話ができるよ

うな、「サロンのな」場所があるといいな、と感じている。

委員：商売をやっている方は、どうしても日曜日も店を開けたいと考えるのでそういった家庭のお子さんも預かってくれるという意味では、飯山市もいいことを考えているな、と思った。別の話だが、私はレクリエーションインストラクターという資格を持っている。中野市社協では、昨年度にこの資格を取った方が数人いる。飯山市社協には一人もいない。できれば、社協の職員にこの資格を取ってもらって、児童館・児童クラブに配置してもらいたい。私は去年、木島、戸狩、秋津で、クップというニュースポーツを指導してきた。道具は1セット16,500円である。私がまず1セット買って、あとは地区の社協と育成会に半分ずつ出してもらって買ってもらった。こういったものを発信していける人材を育てていくことで、飯山市がよくなっていくのではないかと思う。それには私も支援していく。7か月、10万円ほどで資格が取れる。是非検討いただき、社協から各児童クラブ・児童センターへ、ゲームなどを発信できる人材を育てていただきたい。

委員：去年から制度が大きく変わり、また保育士たちも熱心にかかわってくれているので、保護者としては本当にありがたい。職場に入ると、私も1人の職員であるので、なるべく早く帰りたいと思うが、なかなかそうもいかない。今日も遅くなったな、と思っても、保育士からは、18時半までだからいいんだよ、あわてないで迎えに来てください、と言ってもらえてありがたい。仕事が忙しいと自分にもゆとりがなく、ピリピリしていると子どもも言うことを聞かないということがよくあるが、保育士はよく見てくれていて、的確にアドバイスをいただける。「親も育つ」ということで、すごくありがたく思っている。こういったことについて、保護者たちは制度が変わって大変助かっているのだが、保育士たちはどう思っているのかが心配。土曜・日曜も働いたり、毎日遅くまで働いていることに見合ったものがあるのか。最近ニュースでも保育士の給料の話題が取り上げられているが、そういったことで保育士たちの不満がたまっていき、退職する保育士が出てくるようではこの制度は継続できない。現状がわからないので何とも言えないが、保育士が大変という話も聞いているので心配である。大変さに見合ったものがないとモチベーションも維持できない。

会長：保育士たちは、実際大変な思いをしていることだと思う。労働に対する対価として、不満を持っている方もいると思う。これは飯山市や長野県に限った話ではなく、国レベルでちゃんと対応していかないと困る。このしわ寄せが保護者や子どもたちの方に来ないことを願いたい。

委員：「子ども館」の建設や、保育料の関係については、この子ども・子育て会議が主導権を握って決めていくことが理想。子ども未来基金については平成27年度に1億円の基金を積んで、平成28年度から30年度までに使っていこうというもの。1億円というのはすごく魅力的である。この使い道を早い段階で具体的に決めていかないといけないと思う。これ

は事務局が総務部の企画財政課にあるので、そちらの部局で動いてもらわないといけない。もう28年度も半ばに差し掛かるので、もう少し具体的に、スピーディーな動きが見えてくるといいと思う。この会議の中でも、具体的な意見を頂戴しながら、1億円をどのように配分しどのような事業で使っていくのか、動いていくといいと思う。

委員：保健福祉課では、0歳までの子どもをもつ家庭を対象に、ママサポという事業を実施している。1歳になるまでの間に、子育てのポイントを学んでいただくということを計画してやってきた。だんだん人数が増えており、特に、母親が子どもと離れて参加するヨガ等が大人気だ。少しの間子どもと離れてリラックスし、そしてまた子どもと向き合うというのが大事なのだと思う。相談日も設けているが、相談に来る方もだいぶ多い。それだけ子育てに関して不安を感じている方が多いということだと思う。「子ども館」の建設にあたっては、相談機能を充実させて、少しでも不安を解消し、気持ちよく子育てができるようになればいいと思う。また、人数としては多くはないが、障がいを持つ子どもをかかえる親もいる。人数が少ないため保護者が声を上げる機会も多くないが、「子ども館」の検討にあたっては、そういった方々にも配慮した機能設計をしていただきたいと思います。

委員：保育園に通わせている親としては、保育士たちがよくやってくれているのはもちろんだが、親もがんばっている。家に帰って時間のない中、子どもを迎えに行き、連れ帰り、ご飯を作り、とやっている中、子どもが寄ってきてもきつく当たってしまったりする。いけないと分かってはいるが、早く済ませないと子どもが寝てしまう。そういったこともあり、子どもと関わってられる時間も少なくなっている。本当は仕事が終わってすぐ子どもを迎えに行くのがいいのかもしれないが、保育園に預けている間に家事を済ませてから迎えに行くというくらいの時間があれば少し助かる。そうすれば子どもの面倒を見ながら家事をやらなくてもいいということで気持ちに余裕ができ、子どもと遊んであげられる時間もできる。一番ありがたいのは、社会全体が子どもとの時間を作れるような体制になってくれるということ。例えば、小さい子どもがいる人は16時までの勤務とするようになれば、18時まで保育園で預かってくれるとすると、家事を済ませてから迎えに行くことができ、宿題を見てあげるのも、家事をやりながらではなく隣についてみてあげることができる。難しいとも思うが、そういう社会が理想だ。市で変えるという問題ではなく、社会全体の問題だ。もう一点、あきは保育園では、未満児は多いが、3歳以上児はすごく少ない。年長は10人いるが、年中は2人、年少は4人。年中の保護者の中からは、この保育園に預けておくのはどうかという声が出ている。小学校へ上がると、2人が2クラスで別々になってしまい、かわいそうだということ。それを考えて、年長になったら転園したいという話も出ている。そうなれば、来年はあきは保育園の年長児がいらないという状況になる。「子ども館」の中に保育園を作り、しろやま保育園とあきは保育園を合併することも、できればやってもらいたい。そうすれば人員配置の面でも保育士の負担が減ると思う。しろやま保育園とあきは保育園については、合併を検討してもらえるとありがたい。

事務局：それぞれの委員さんから貴重なご意見を頂戴できた。先ほどお話の出たしろやまとあきはの問題は、特にあきは保育園では来年の年長児が2人という状況も見えている。この子ども・子育て会議としても、今後保育の適正規模の検討が必要となってくる。「子ども館」の関係もあり、今年度の会議としては、最低もう一回は開催したいと考えている。時期は未定だが、今日いただいた意見を踏まえた会議をもう一回は開催したい。

教育長：教育委員会は、0歳から18歳までを視野に入れている。今、一番の課題となっているのは、家庭での学習である。調査においても、大変厳しい結果が出ている。総合教育会議でも教育大綱を策定したが、家庭教育をどうしていくかが、今後の飯山市の子どもたちの15歳、18歳の時点を考えたときに重要なポイントとなってくる。当然、その前に保育園でどのように過ごすかという点では、最高の環境で最高の保育を提供することで、小学校、中学校へ進んだ時に子どもたちの成長に必ず成果が出てくる。飯山市の子育ての第二段階として、質的な面でメスを入れていく時期だと思う。今日の会議での意見を基に、現状維持ではなく少しずつでも確実に前へ進んでいくことをやっていきたい。いずれにせよ、小学校、中学校での課題が明確になったので、そういった面でもここにお集まりいただいた委員の皆さんのご理解とお力添えをいただきながら、飯山市で生まれ育った子どもが15歳、18歳になった時に同じスタートラインに立って将来を決められるようにしたい。お金のあるなし、両親のあるなしに関係なく、同じスタートラインに立たせてあげることが教育委員会の使命。今日は貴重なご意見をありがとうございました。